

蒲生干潟で見られる野鳥とそれらを支える生態系



Fig.1 ヒバリ

飛びながら絶え間なくさえずる (Fig.1)



Fig.2 ウミネコ

干潟の上を餌を探しながら低空飛行で飛び去る (Fig.2)



Fig.3 オオセグロカモメ

幼鳥も混じった群れで餌を探している (Fig.3)



Fig.4 カワウ

採食行動の後の羽干しをする様子 (Fig.4)



Fig.6 チョウゲンボウ

干潟内の昆虫などを狙ってきたと思われる (Fig.6)



Fig.7 トウネン

岸沿いを歩きながら地中に住む甲殻類などをついばむ (Fig.7)



Fig.8 コサギとダイサギ

時折飛んで場所を変えながら水面をつつき餌を探すサギのなかまたち (Fig.8,9)



Fig.9 アオサギ

干潟内で見られる昆虫類や甲殻類、ゴカイのなかまなど。潟湖の中には多くの小型魚類の姿も見られた。これらの生物群が、食物連鎖の頂点に立つ野鳥たちを支える多様な生態系を形成している。(Fig.10~13)



Fig.10 ショウリョウバッタ



Fig.11 シオカラトンボ



Fig.12 ゴカイのなかま



Fig.13 コメツキガニ

調査日時：2025年8月1日（金） Fig.1~2, 12~13 2025年9月10日（水） Fig.3~11

蒲生干潟は海浜植物や水生生物だけでなく、渡り鳥の飛来地としても有名であり、多様な鳥類の生息地でもある。野鳥の楽園とも呼ばれていた蒲生干潟も震災直後はほとんど野鳥の姿が見られなかった (No.1[2011.4.15])。津波の影響で野鳥の餌となる魚類や甲殻類、ゴカイなどの底生生物や、陸上の植物が流出したことで昆虫類の数が減ったからである。しかし、本調査で継続して報告されているように、多くの海生生物が復活し、植物相の回復によって多様な昆虫類が生息している。そのため現在では、再び多くの野鳥が暮らす豊かな環境となっている。今後も、蒲生干潟を訪れる野鳥とそれを支える環境を記録し生息調査を行ってきたい。

(伊藤勝彦)